

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

鎌ヶ谷市第2期まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県鎌ヶ谷市

3 地域再生計画の区域

千葉県鎌ヶ谷市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は、1960年から1980年にかけて大幅に増加し、その後も増加傾向が続き、2018年には約11万人となっている。2019年に実施した「鎌ヶ谷市総合基本計画基礎調査」及び2021年に策定した「鎌ヶ谷市総合基本計画前期基本計画」による独自推計によれば、2018年の約11万人をピークに減少傾向に転じ、2045年には約10万人程度まで減少することが予測されている。

年齢3区分別人口の推移については、生産年齢人口（15～64歳）は、2000年の約7万5千人をピークに減少に転じ、2010年には約7万人まで減少した。市の独自推計では、その後も減少傾向が続き、2045年には約5万2千人程度まで減少することが予測されている。また、年少人口（14歳以下）は、1980年以降減少傾向が続き、2010年には約1万4千人まで減少した。市の独自推計では、その後減少傾向が続き、2045年には、約9千8百人まで減少すると予測されている。さらに、老年人口（65歳以上）は、1980年以降増加を続け、2010年には約2万4千人まで増加した。市の独自推計では、その後も一貫して増加傾向にあり、2045年には、約3万7千人程度まで増加する見込みとなっており、今後、人口減少・少子高齢化に対し、何ら対策を講じなければ、2060年には、38.1%の高齢化率になることが見込まれている。

自然増減については、出生数が2000年の931人に対して2019年では698人と近年減少傾向にある一方、死亡数は2000年の507人以降増加傾向にあり、2019年には1,054

人となり356人の自然減となっている。また、合計特殊出生率は県平均とほぼ同水準で推移しているが、2013年の1.33に対し、2019年は1.22と減少傾向にある。

社会増減については、転出数は、1996年の6,455人以降、2012年の4,793人まで減少傾向が続いたが、その後増加傾向に転じ、2019年には6,032人まで増加している。また、転入数は、概ね5～6千人の水準で推移したが、2013年には4,783人と初めて5千人を下回った後、2014年に5,097人と増加傾向に転じた後、2019年には6,387人となり355人の社会増となっている。

現状では自然減を上回る社会増となっているものの、今後は出生数の減少及び死亡数の増加がより加速することにより人口減少に転じることが見込まれている。今後、人口減少や少子高齢化が進行すれば、社会保障費の増加や生産年齢人口の減少による地域経済社会の縮小などといった課題が生じる。

また、人口移動を年齢階級別にみたときに、高校や大学等への進学等に伴う10歳代後半と、30歳代の子育て世代において転入超過の傾向があり、女性においては、20～30歳代の子育て世代の転入が多い傾向にある。一方で、市が実施したアンケートの結果では、子育て環境充実への市民のニーズが高く、子育て環境における課題があることが伺える。このまま放置すると、交通や日常生活の利便性の観点から、子育て世代の若者が他市へ転出する可能性が高いことから、雇用・就労環境や教育環境の充実が定住に向けた課題となっている。

以上の課題に対応するため、以下の重点プロジェクトを掲げ、効果的な施策を早期に実施していく。

- ・重点プロジェクト1 誰もが安心して暮らせる防災、減災のまちづくり
- ・重点プロジェクト2 未来を担う子どもをみんなで応援するまちづくり
- ・重点プロジェクト3 人が集い、住みたい魅力のあふれるまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標

ア	業務継続計画 (BCP) の確認 及び見直し	2回	2回	重点プロジェクト1
ア	防災体制強化研修の参加者 数	—	400人	重点プロジェクト1
ア	自主防災組織への資器材交 付完了団体数 (累計)	77団体	85団体	重点プロジェクト1
ア	避難行動要支援者避難支援 制度協力自治会数 (累計)	15自治会	50自治会	重点プロジェクト1
ア	避難所運営委員会の組織数 (累計)	12組織	21組織	重点プロジェクト1
ア	総合防災訓練の参加者数	1,871人	2,000人	重点プロジェクト1
ア	消防車両の更新台数 (累計)	—	16台	重点プロジェクト1
ア	予防技術資格者数	35人	60人	重点プロジェクト1
ア	住宅用火災警報器の設置率	72.6%	73.8%	重点プロジェクト1
ア	立入検査実施件数	389件	400件	重点プロジェクト1
ア	救命講習開催回数	48回	55回	重点プロジェクト1
ア	活動訓練実施回数 (救急、 救助)	922回	930回	重点プロジェクト1
ア	木造住宅等の検査済証の交 付率	95.0%	100%	重点プロジェクト1
ア	宅地、建物のパトロール件 数	121件	170件	重点プロジェクト1

ア	住宅耐震改修促進事業補助 件数	13件	15件	重点プロジェク ト1
ア	空家等の解消件数（累計）	205件	445件	重点プロジェク ト1
ア	市内公営住宅の供給戸数	382戸	401戸	重点プロジェク ト1
ア	外壁、屋上防水等改修率	10.0%	50.0%	重点プロジェク ト1
ア	準用河川二和川バイパス整 備率	37.7%	100%	重点プロジェク ト1
ア	雨水貯留池の容量	43,520m ³	48,720m ³	重点プロジェク ト1
ア	雨水浸透柵モニター設置数 （累計）	176基	281基	重点プロジェク ト1
ア	河川、水路除草面積	63,376m ²	65,500m ²	重点プロジェク ト1
イ	乳児家庭全戸訪問事業 訪 問率	96.0%	96.0%	重点プロジェク ト2
イ	つどいの広場利用人数	25,859人	34,000人	重点プロジェク ト2
イ	児童虐待防止（子育て関係 ）講座等の開催回数	15回	38回	重点プロジェク ト2
イ	ひとり親家庭高等職業訓練 促進給付金受給者数	8人	12人	重点プロジェク ト2
イ	児童センター利用人数	99,378人	126,000人	重点プロジェク ト2
イ	子育てサポーター活動回数	740回	800回	重点プロジェク ト2

イ	子育て支援員研修の受講率	23.8%	50.0%	重点プロジェクト2
イ	保育所定員数	1,545人	1,635人	重点プロジェクト2
イ	放課後児童クラブが楽しいと思う児童の割合	60.2%	80.0%	重点プロジェクト2
イ	放課後児童クラブの定員数	806人	827人	重点プロジェクト2
イ	一時預かり事業の受入可能人数	10,560人	15,840人	重点プロジェクト2
イ	ファミリー・サポート・センター提供会員数	171人	195人	重点プロジェクト2
イ	外壁、屋上防水等改修率	32.3%	35.5%	重点プロジェクト2
イ	小中学校トイレの整備進捗率	46.4%	94.6%	重点プロジェクト2
イ	ICT教育機器の1日の授業における使用割合	—	50.0%	重点プロジェクト2
イ	学校図書館図書標準の達成校	12校	14校	重点プロジェクト2
イ	自主公開取組み校	9校	12校	重点プロジェクト2
イ	児童生徒と向き合う時間を確保できている教職員の割合	68.2%	95.0%	重点プロジェクト2
イ	児童生徒の定期健康診断受診率	95.1%	95.5%	重点プロジェクト2
イ	児童生徒の定期健康診断受診勧告後の医療機関受診率	54.9%	60.0%	重点プロジェクト2

イ	子ども自転車安全運転講習会、スケアード・ストレイト自動車交通安全教室の実施回数	10回	11回	重点プロジェクト2
イ	こども110番の家の登録件数（累計）	1,324件	1,464件	重点プロジェクト2
イ	鎌ヶ谷産野菜、果実使用献立数	17回	22回	重点プロジェクト2
イ	食育指導の実施回数	25回	34回	重点プロジェクト2
ウ	都市公園の遊具等の改修、更新数（累計）	65基	142基	重点プロジェクト3
ウ	公園サポーター制度による協働管理の公園数	42か所	50か所	重点プロジェクト3
ウ	保全林指定数	10か所	10か所	重点プロジェクト3
ウ	公園等設置数	240か所	256か所	重点プロジェクト3
ウ	都市計画道路整備率（事業認可施工済区間/都市計画決定区間）	33.2%	38.7%	重点プロジェクト3
ウ	都市計画道路事業認可区間における用地取得率	47.1%	100%	重点プロジェクト3
ウ	主要市道、一般市道改良延長	717m	870m	重点プロジェクト3
ウ	交差点改良事業における用地取得率	0%	100%	重点プロジェクト3
ウ	交通安全教室の開催数	20回	22回	重点プロジェクト3

ウ	交通安全施設更新件数（累計）	77基	155基	重点プロジェクト3
ウ	まち並みや景観の満足度	—	60.0%	重点プロジェクト3
ウ	新鎌ヶ谷地区事業所数	329事業所	340事業所	重点プロジェクト3
ウ	駅前広場整備着手数	1件	2件	重点プロジェクト3
ウ	新鎌ヶ谷駅の1日当たりの乗降客数	103,942人	116,000人	重点プロジェクト3
ウ	公共交通に対する満足度	—	70.0%	重点プロジェクト3
ウ	コミュニティバス利用者数	131,843人	167,000人	重点プロジェクト3
ウ	創業支援セミナー参加者数	82人	150人	重点プロジェクト3
ウ	市制度融資実行件数	27件	30件	重点プロジェクト3
ウ	企業誘致件数（累計）	0件	3件	重点プロジェクト3
ウ	無料職業紹介所の紹介による就職人数	62人	130人	重点プロジェクト3
ウ	観光入込客数	404,175人	410,000人	重点プロジェクト3
ウ	観光イベント参加者の満足度	—	80.0%	重点プロジェクト3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

鎌ヶ谷市第2期まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 誰もが安心して暮らせる防災、減災のまちづくりプロジェクト
- イ 未来を担う子どもをみんなで応援するまちづくりプロジェクト
- ウ 人が集い、住みたい魅力のあふれるまちづくりプロジェクト

② 事業の内容

ア 誰もが安心して暮らせる防災、減災のまちづくりプロジェクト

新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、「新たな日常」を実現しつつ、感染症蔓延などの緊急事態に備える新たな危機管理体制を構築する必要があるとともに、自然災害への対応として、自助・共助・公助による地域防災力の向上が必要となるため、危機管理体制等の強化・充実や良好な居住環境の確保、河川や雨水貯留池の整備を推進します。

【具体的な取組】

- ・洪水ハザードマップ作成事業
- ・防災行政無線デジタル化事業
- ・マンホールトイレ整備事業
- ・消防車両更新事業
- ・鎌ヶ谷消防署及び中央消防署改修事業
- ・住宅耐震改修促進事業
- ・空家等対策事業
- ・準用河川整備事業
- ・雨水貯留池整備事業 等

イ 未来を担う子どもをみんなで応援するまちづくりプロジェクト

行政・学校・地域・事業者など社会全体で未来を担う子どもとその家庭を支援することで、子どもを産み育てやすい環境を構築するとともに、鎌ヶ谷で育った子どもが、市に愛着を持ちながら成長し続けることで、大人になっても住み続けたいと思えるまちづくりを目指すため、子育て環境の充実や安全で安心な教育環境の確保、生きる力をはぐくむ特色ある学校づくりを推進します。

【具体的な取組】

- ・結婚新生活支援事業
- ・児童遊園改修事業
- ・（仮称）東部地区児童センター設置事業
- ・民間保育所等整備助成事業
- ・保育園改修事業
- ・放課後児童クラブ整備・改修事業
- ・義務教育施設維持補修事業
- ・小中学校ICT環境整備事業
- ・通学路安全対策事業 等

ウ 人が集い、住みたい魅力のあふれるまちづくりプロジェクト

市が目指す都市像「人と緑と産業が調和し 未来へひろがる 鎌ヶ谷」を達成するため、緑と調和した景観形成や緑地の保全を図りながら、企業誘致等に積極的に取り組み、地域の魅力を最大限に活かした魅力あるコンパクトなまちづくりを推進します。

【具体的な取組】

- ・新京成線連続立体交差事業
- ・新鎌ヶ谷西側地区都市計画道路整備事業
- ・都市軸形成促進事業（初富駅前広場の整備）
- ・新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業（歩行者専用道路の整備）
- ・近隣商業拠点整備事業（北初富駅前広場の整備）
- ・公園施設長寿命化事業
- ・（仮称）緑道整備事業

- ・創業支援事業
- ・コミュニティビジネス事業・ベンチャービジネス事業
- ・空き店舗活用事業
- ・企業誘致基本計画推進事業

※詳細は鎌ヶ谷市総合基本計画前期基本計画のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

170,000千円（2021年度～2024年度）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度1回9月に外部有識者による効果検証を行い、その結果に基づき、必要な改善を事業に反映する。検証結果は、速やかに鎌ヶ谷市ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

2021年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで